

第 180 回研究会「海外における木質バイオマスエネルギー推進についての最近の論調、産官学が直面する新たな課題」(仮題)	
日時	2019/01/29(火) 15:00～17:00
テーマ	海外における木質バイオマスエネルギー推進についての最近の論調、産官学が直面する新たな課題(仮題)
講演者	【報告者1】 藤原敬氏(一般財団法人林業経済研究所フェロー研究員)「気候変動と持続可能なバイオマス利用～土地利用転換・BECCS・森林の炭素蓄積機能に関わる国際的議論の動向～(仮題)」【報告者2】 マイケル・ノートン教授(ヨーロッパアカデミー科学諮問委員会環境ディレクター)「欧州の過ちから学ぶ森林バイオマスエネルギー」
会場	地球環境パートナーシッププラザ (東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学1F) 地下鉄表参道駅より徒歩5分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分 http://www.geoc.jp/access
参加費	BIN 会員:無料 一般:¥1,000(税込)
その他	<p>※バイオマスは燃焼させても、植物が光合成によって炭素を固定するため、大気中の CO2 を増加させない(炭素中立/カーボンニュートラル)と考えられていますが森林をエネルギー利用のために伐採した場合、土壌中の CO2 や他の温室効果ガスも放出します。</p> <p>※土地利用転換による温室効果ガスの増大や、バイオマスを使った CO2 回収貯留(BECCS)、森林の炭素循環のダイナミクスなどについて、近年、国際的に活発な議論が行われています。</p> <p>※第 180 回研究会では、こうした議論の動向について、まず、報告者1として藤原敬さんにご報告いただきます。</p> <p>※次に、報告者2としてマイケル・ノートン教授より、ヨーロッパの森林バイオマスを巡る動向について、お話いただきます。(講演は日本語です)</p> <p>※より持続可能なバイオマス利用とはどのようなものかについて、参加者の皆様とともに、活発なディスカッションができれば幸いです。</p>